

2008年5月9日

投資脳の作り方

～トヨタ、9年ぶり減収減益～

経済アナリスト 木下晃伸（きのした・てるのぶ）

■当資料は、経済アナリストの木下晃伸が、投資環境についての情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。■当資料に基づいてとられた投資行動の結果については、株式会社きのしたてるのぶ事務所（以下当社）ならびに木下晃伸は一切責任を負いません。■当資料の内容は当資料作成時のものであり、将来予告なく変更される事があります。■当資料は、当社が信頼性の高いと判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料におけるデータ・分析等は過去の一定期間の実績に基づくものであり、将来の投資成果及び市場環境の変動等を保証もしくは予想するものではありません。

本日お話をさせていただくこと（目次）

● 「投資脳のつくり方」

- トヨタ、9年ぶり減収減益
- 中東からマレーシアへの投資が加速
- 本の目利きめざせ

● 「個別銘柄情報はこちらから」

「なぜ、この会社の株を買いたいのか？」（プレミアムメールマガジン）ご紹介

●お申し込みはこちらから（1ヶ月間は無料視聴、いつでも停止できます）

（まぐまぐ）<http://premium.mag2.com/mmf/P0/00/50/P0005007.html>

（フィスコ）<http://fisco.jp/report/mail/terunobu-kinoshita.html>

トヨタ、9年ぶり減収減益

(出所) 2008年5月9日付日本経済新聞朝刊1面

- トヨタ自動車は9年ぶりとなる減収減益を発表
- 円高だけで6,900億円の営業減益要因
- 世界販売台数は906万台と過去最高を更新するが、伸びは鈍化

トヨタ自動車は2009年3月期の連結決算で9年ぶりの減収・営業減益となる。本業のもうけを示し、為替の影響などを反映する営業利益は1兆6,000億円と前期に比べ30%減少する。急速な円高・ドル安や原材料価格の上昇が直撃するため。

私はトヨタ自動車に対して非常に強い関心を持っている。企業のあり方、強い組織、見習うべき点は本当に多い。元副社長大野耐一さんが書かれた「トヨタ生産方式—脱規模の経営をめざして」は今から30年も前に書かれた本だが、いまなお輝きを失っていない。熟読した駆け出しアナリストの頃を昨日のことのよう思い出す。

しかし、投資対象として魅力があるか、と問われれば、あえてトヨタ自動車に投資をする意味を見いだせないのが実情だ。むしろ、苦境に喘いでいる米ゼネラル・モーターズ(GM)に投資対象としては魅力を感じる。いわゆる「バリュー株投資」だ。

トヨタは新興国市場でそれほどの地位を占めていない。好調と言われる中国では、GM12%・トヨタ5%、ロシアでもGM9%・トヨタ6%と後塵を拝している。さらに、販売台数248万台を誇るブラジルに至ってはかなり厳しい。ブラジルはGM21%に対し、トヨタは3%にすぎない。

北米部門の大幅赤字に目処がつけば、GMは新興国需要の好調から株価が上昇する可能性がある。トヨタ自動車を通じて、世界株を見ると、投資対象が大きく広がる。

中東からマレーシアへの投資が加速

(出所) 2008年5月9日付日本経済新聞朝刊9面

- マレーシア従業員積立基金(ERP)が保有株式を中東金融に売却
- 売却価格は38億7,600万リンギット(約1,280億円)
- 中東からマレーシア金融分野への投資として過去最大となる

マレーシアの従業員積立基金(EPF)は8日、82%を出資するマレーシア第4位の金融グループ、RHBキャピタルの株式25%をアラブ首長国連邦(UAE)のアブダビ・コマーシャル・バンク(ADCB)に売却する契約を結んだ。中東からマレーシア金融分野への投資として過去最大。

マレーシアはイスラム国家であり、投資対象としても魅力が高い。6月初旬の訪問に向けて準備をしているところだ。RHBキャピタルへの取材申し込みも行っており、実現すれば絶好のタイミングで取材できることになる。

マレーシアには、資源関連企業もある。国家単位としても魅力が高い。現地取材を行ない、魅力をしっかりとこの目で見つめてきたい。

なお、5月末の韓国、6月初旬のマレーシア訪問をふまえ、6月11日(水)から6月13日(金)までの3日間、大阪、京都、神戸の三都市で日経ビジネス協賛によるアジア株に強い藍澤証券主催の「アイザワ三都資産運用セミナー」に講師としてお話しさせていただく予定だ。

アジア株のみならず、世界に投資をする魅力をお伝えできればと考えている。ご興味ある方は下記をご覧ください、お申し込みいただければ幸いです。

(参加費無料) <http://www.terunobu-kinoshita.com/aizawasec-seminar.pdf>

本の目利きめざせ

(出所) 2008年5月9日付日経産業新聞19面

●大宅賞作家、野村進氏に聞く、「本の目利きめざせ」

●情報をうまく収集するには??

●価値のある1冊精読を

「千年働いてきました」(角川書店)などのベストセラーで知られる作家野村進氏が語る、**情報をうまく収集する方法には、うなづくことが多い。実際に私も実践していることもあり、改めてこれでいいんだ、と確認ができた。**

●本は図書館で借りるより買う方が良いという。野村氏は**「本を買うのにお金を惜しむな」**と強調する。(中略)本に傍線を引いたり書き込んだりするのをためらうべきではない。「資料用の本は乱雑に扱え」というのが野村氏の持論だ。

●野村氏が忙しいビジネスパーソンに勧める読書法は**「熟読の価値がある本を1冊じっくり精読すること」**。

●**情報を集めるには人に会って話を聞くことも必要になってくるだろう。**自分に必ずしも知識がないことをその分野に詳しい相手に聞くことになるが、愛想良く相づちを打つだけでは先方に見透かされる。「知ったかぶりをしないで話を聞期、相手に関心をもって伝えること」が大切だ。

私も本は乱雑に扱う。買った瞬間にカバーを取り外し、右手にはペンを持ちながらぐりぐり書き込む。また、私も最後まで読む本は意外と少ない。結局は1冊を精読して得られた知識が役に立つ。その1冊に出会うために、何十冊もざっと目を通す、ということだ。そして、得られた知識を人と会い、ディスカッションすることで知恵に変わっていく。この循環を普段の生活の中に組み入れると、自然と情報は集まるように思う。

個別銘柄情報はこちらから

「なぜ、この会社の株を買いたいのか？」（プレミアムメールマガジン）

- ファンドマネジャー、アナリストの**実際の議論現場**を克明にお伝えします
- 1,000社以上の取材に裏打ちされた、**理論的な株式投資ノウハウ**を全開示
- **ネットセミナー**ならではの臨場感をお楽しみください

個別銘柄投資を通じ、**年率20%以上のリターンを確実に求めていく**ためには、理論に裏打ちされた**確かな投資ノウハウ**を知っておく必要があります。

実務経験があるからこそ気づいた投資ノウハウ、また、個別銘柄を徹底的に分析する際に、何を見て、何に気づけばいいのか、ネットセミナーを通じて克明にお伝えしていきます。

●お申し込みはこちらから（1ヶ月間は無料視聴、いつでも停止できます）

（まぐまぐ）<http://premium.mag2.com/mmf/P0/00/50/P0005007.html>

（フィスコ）<http://fisco.jp/report/mail/terunobu-kinoshita.html>

重要事項（ディスクレーム）

- 掲載される情報は株式会社きのしたてるのぶ事務所（以下当社）ならびに経済アナリスト木下晃伸が信頼できると判断した情報源をもとに作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、当社ならびに木下晃伸は保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。
- 本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。
- 本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権は当社ならびに木下晃伸に帰属し、事前に書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。
- 本資料により提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。
- 本資料に掲載される株式、投資信託、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。
- 本資料は、本資料により投資された資金がその価値を維持または増大することを保証するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、当社ならびに木下晃伸は、理由のいかんを問わず、責任を負いません。
- 当社とその取締役、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。
- 投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。